

# 用水使用量の低減と土壌・水域汚染防止

排水リサイクルなどにより用水使用量削減に努めるとともに、水域や土壌・地下水への汚染物質の排出を防止します。

## 用水使用量・排水量の削減

用水使用量については、2005年度までに生産高原単位で2000年度比5%削減を目標としています。2000年度の全社の生産高原単位12.0千m<sup>3</sup>/百万円に対し、2004年度は14.2千m<sup>3</sup>/百万円となり、18%の増加となっております。

これは、生産数量の増加にともない、洗浄、空調、山形カシオのコジエネへの使用が増加した一方で、売価は下落したことによります。日銀国内企業物価指数（電気機器）によって生産金額で補正した生産高原単位では、2004年度は全体で7.5となり、2000年度比約15%の原単位削減となります。

## ■ 使用量・排水量の削減に向けた取り組み

生産数量の上昇にともない、工程での使用水量は増加したものの、高知カシオ、甲府カシオ、カシオマイクロニクス各事業所において排水の再利用設備を導入した結果、デバイス事業においては前年度の使用量2,551千m<sup>3</sup>の6.7%にあたる1,747千m<sup>3</sup>を循環使用しました。今後もさらに循環水の増加を図ることで、用水使用量・排水量の削減を図ります。

## ■ 海外拠点における用水使用量

2004年度は、生産工程に水を多用する朝日電子エレクトロニクス インドネシアを調査対象に加えたことや、カシオタイの生産増加にともない、水使用量の絶対値、売上高原単位ともに増加しておりますが、水道使用削減運動を全拠点で展開し、原単位の削減に向けた活動を展開しています。

### 海外拠点における水使用量／水使用量売上高原単位の推移



※対象範囲はカシオ時計フランスを除く16拠点です。

## 水質汚染防止

カシオでは、排水処理施設の定期メンテナンスと法に定められた水質検査を確実にを行うとともに、法律／条令に沿った役所への届け出を行っています。現在まで、基準値を超える汚染物質は出ておりません。

また、設備についても、国や自治体の定める基準値を確実に遵守できるよう、基準値を10%以上下回る数値を自主基準値として設定し、その数値をクリアできる装置をメーカーとの話し合いのもとに設置しています。

## 土壌・地下水の汚染防止

土壌・地下水の汚染防止については、2004年度は、すべての事業所において液漏れなどの事故はなく、近隣での土壌・河川の汚染は見つかっておりません。

## ■ 2004年度状況

カシオでは、生産工場および研究開発を行う事業所・拠点に対しては、優先して敷地内土壌汚染調査を行い、汚染があった場合はその結果を公表することとしています。

また、新規に土地を購入する場合には、その調査が終了し、問題のないことを確認した上で購入しています。なお、2005年1月には、カシオマイクロニクスの第二工場用地を購入しましたが、その際も、土壌調査を持主の費用にて実施し、問題のないことを確認しています。

### 2004年度土壌汚染調査結果 (単位:件)

	国内	海外
調査完了の土地	4	1
汚染の発覚した土地	0	0
浄化完了の土地	0	0

## ■ 負荷削減の取り組み

カシオでは、土壌汚染の要因となる排水施設においては、配管を二重構造にするほか、薬液タンクの周囲を漏水処理されたコンクリートで囲むなどの対策を実施しています。

薬液の業者からの供給時には、必ず管理者が立ち会い、不慮の事故が発生した際に直ちに対応できるようにしています。また、土壌汚染となる薬液を多く使用している事業部では、毎年定期的に液漏れを想定した対応訓練を行い、その体制を万全なものにしています。

### 国内拠点における水使用量／水使用量生産高原単位の推移

